

学校統廃合の具体的な枠組みについて（事前集約の意見・質問）

【意見】

《案1に賛成》

- 1 案1を基本に複式学級の回避等の課題を解決する為の方法等、検討が必要。
- 2 案1に賛成。新校舎については、上市中学校の場所で建設できないか。また、廃校舎の跡地利用をお願いしたい。これらのことを、地区単位ではなく町全体としてとらえる必要がある。

《案1または2に賛成》

- 3 案2、3だと再編の都度、校歌や制服、場所や組織等の変更による混乱、学習環境の変化が重なることで児童のみならず、保護者や教職員の負担が増えるのではないかと。 (制服や体操服などの購入に係る金銭的負担も大きい) このため、案1が良いとは思いますが、校舎建設等に時間が掛かることは避けられず、先に白萩西部、陽南の統合を行う案2となるのではないかと。
- 4 案3は、上市中央小跡地に新校舎を建設するのであれば有効だが、上市中央小跡地への建設については、周辺での車の出入りが多いこと、洪水ハザードマップの想定浸水地域となっていることから反対である。このため、案1、2が望ましいと考えるが、案1は建設に想定以上の時間が掛かることから、案1か2の判断は、白萩西部、陽南の保護者の意見を参考にすればよいと思う。
- 5 方向性を決め、一刻も早く進めるべきである。方向性が決まった時点から交流を重なることで、スムーズな統合ができる。案3は、上市中央小が大きな母体であることから、問題も多くなる。
- 6 案3には反対である。上市で一番人数の多い小学校を廃校にして分散させることにメリットを感じられなく、負担を感じる子どもの数も多い。案2>案1の順で、現状で優先すべきは複式学級の解消であり、白萩西部と陽南の統合を早急に行ったほうが良い。

《案2に賛成》

- 7 案1については時間がかかることで、複式学級の期間が長くなり、児童の負担となる。案3については、多くの児童に「別れ」を味あわせてしまうことになり、この案が最も負担感が大きいと思われる。案2は「別れ」ではなく、「出会い」を生む選択であり、複式回避もでき、各校の課題を段階的に解決しながら進めることができることからこの案が良いと考える。

《案2または3に賛成》

- 8 案1は現状で想定している校舎建設のスケジュールでは難しいのではないかと。当初予定より遅れると複式学級の問題があるため、案2、3が良いのではないかと。
- 9 どの案であっても新校舎建設は早急に進めるべきだが、複式学級の回避という点から、子どもたちのリスク減を考えるなら案2、他校舎の活用を考えるなら案3で進めるべきである。
- 10 案1だと教室を多く設置することとなり、後年に空き教室が出てくるのではないかと。

《案1または3に賛成》

- 11 案1がなるべく早く進むように取り組んでもらいたいが、様々な問題もあることから案3もやむなしと思う。案2は児童数の偏りが大きくなる。町内の児童がなるべく同じような人数の中で教育を受けられるようにしてほしい。案3は、多くの子どもたちの環境が変わるため、保護者の理解が不可欠である。また、制服や体操服などどうするのかなど、細かいことにも問題が出てくることから、子どもたち、保護者の意見を聴いてもらいたい。

《その他》

- 12 3つの案から統合を進めていくのであれば、保護者、児童、地域に協力、理解していただけるよう協議していけば良いのではないかと。
- 13 学校には避難施設としての役割もあることから、町中心部に大きな学校があるのが良いと思う。上市中央小、上市中のどちらなのか、より安全な場所に子どもたちを通わせたい。図書館や役場庁舎の建て替え時期も含め、どの場所に建設するのか、放課後の児童の預かりなどの方法も併せて検討するのがよいと思う。
- 14 小中一体の新校舎の建設を優先し、完成を早めるよう努力すべきであり、校舎の完成と共用開始をゴール地点に定め、逆算的に物事を決めていくスタンスで取り組むべきである。
- 15 「前期課程・後期課程」は馴染みがなく、他に言い方はないものか。
- 16 特色ある学校づくりを進め「そんな学校があるなら上市に移住したい」と思える学校に、また、不登校や特別支援などのケアも充実してもらいたい。

【質問】

- Q 1 統合の際、使用する校舎や新校舎の場所など、方針は決まっているのか。
新校舎の建設予定地はどこになるのか。また、地区説明会では予定地を伝えるのか。
学校を一つにするとした場合、現在より広い敷地が必要になると思うが、土地買収に時間がかかるのではないかと。
新校舎建設に向けての現在の進捗状況はどうか。案1とした場合、町当局の進捗の遅れが露呈するのではないかと。
上市中央小の場所に建設する場合は案3で進めていくのが良いと思うが、上市中央小の子どもたちが現校舎の通いながら、新校舎を建設することは可能なのか。中学校の場所に建設する場合も同様に可能なのか、その場合の校舎の建設方法はどうか。また、それ以外の候補地はあるのか。
- A 1 新校舎建設の方針（建設予定地、建設手法も含め）は決まっていないが、内部での検討は始めている。

- Q 2 案2、3の場合、児童はどここの学校名で卒業となるのか。
- A 2 卒業時に在籍した学校名となる。

- Q 3 各小学校独自の取組み（例えば南加積のブラスバンドや相ノ木の相撲など）は続けていくのか。
- A 3 それぞれの学校の特色をどう活かしていくのか、何を残していくのかについては、統廃合を決定した時点から、しっかりと協議していく必要があると考えている。
- Q 4 案2に「上市中央・白萩西部・陽南」または「白萩西部・陽南」とあるが、「白萩西部・陽南」の2校のみの案もまだあるのか。
- A 4 全体統合までの間、白萩西部と陽南を先行統合することにより、複式学級を回避することは可能であることから、この案も検討事項の一つと考えている。
- Q 5 案2では全小中学校の統合が令和12年となっているが、案3で令和15年となっている理由は。
- A 5 統合3案についての詳細資料において説明
- Q 6 令和8年に中央小の児童が分散した際の各小学校の学年ごとの人数はどうなるのか。
- Q 6 別紙のとおり
- Q 7 示された3案のほかに、方法はあるのか。
- A 7 別紙の上市中央小分割後の各校児童数シミュレーション表、各年度の小計欄にいくつかの学校の組み合わせが記してあるが、その児童数を見ると、いずれも1学年3学級または4学級となることから、現校舎では対応は出来ない。このことから3案以外は難しいと考える。
- Q 8 段階的にでも統合が始まれば、スクールバスの運行も始まるのか。また、現在の状況も含め、スクールバス運行のネックとなっていることはあるのか。
- A 8 仮に案2で進めた場合でも、その間において徒歩通学の範囲外に居住する児童がある場合は、なんらかの対応が必要になると考えている。なお、現状ではバスの台数や運転手に限りがあるため、必要な運行を確保する対策の検討が必要である。
- Q 9 学校の統廃合はまちづくりとも絡んでくるものと思う。資料では子どもの数は現状で記載されており、先を読むことは非常に困難かと思われるが、子どもの数が増えるような町の施策も知りたい。
- A 9 町としては、若者人口や出生数を増やすため、移住施策や様々な子育て施策を展開してきている。しかしながら、急激な増加を望むことは難しく、まずは現状の出生数を維持していくという点から資料を作成したものである。
- Q 10 小中一貫校は何となく想像がつくが、義務教育学校はどのような学校なのか分からない。義務教育学校とした場合のメリットは何か。
- A 10 義務教育学校導入への評価（追加資料）において説明